

令和7年度 学校経営方針

1 校 訓 実力 責任 忍耐 奉仕

2 教育方針

(1) 入学者の受入れに関する方針[アドミッション・ポリシー]

- ① 自分自身の夢をかなえるために学習や部活動に積極的に取り組み、新しいことに挑戦したいと思っている生徒
- ② 各学科で学ぶ専門的な知識や技能を活かした進学や就職を目指している生徒

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針[カリキュラム・ポリシー]

- ① 一人一台端末を積極的に利用し、個々の生徒の情報活用能力を高め、自ら学ぶ態度や思考力・判断力・表現力を養う指導を行う。
- ② 地域の企業、大学等と連携した実践的・体験的な学びを取り入れ、深い学びにつながる活動を実践する。
- ③ 各学科の特色を取り入れた教科横断的な学びや目的を持った資格取得につながる活動を実践する。
- ④ 生徒主体の学校行事やボランティアなどの活動を通して、課題解決能力の向上を図る。

(3) 育成を目指す資質・能力に関する方針[グラデュエーション・ポリシー]

- ① 商業の知識と技術を習得させ、時代の変化に順応し、想像できる力と共創しながら社会に貢献できる力を育成する。(商業科)
- ② 専門学科で培った知識や技能を活用し、共生社会の担い手としてグローバルな視点で他者と共創できる力を育成する。(国際コミュニケーション科)
- ③ 高度IT社会で活躍するために必要な基本的知識・技術を習得させ、実践的な活用能力を育成する。(情報科)

3 教育目標

- (1) 専門的・実践的な知識・技能を活かしながら、周囲と協働し論理的に課題解決策を他者に発信できる力を育み、将来、ビジネス社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。
- (2) 一人一台端末を積極的に利用しながら個々の生徒の情報活用能力を高め、自ら学ぶ姿勢を育てる。
- (3) 礼節を重んじ伝統を重視し、部活動と学習の両立を奨励して文武両道の精神を養い、地域に信頼される学校を目指す。
- (4) 地域の企業との協働学習に取り組み、より実践的に学ぶ機会を与える。
- (5) 外国語学科を持つ本校の強みを活かし、所属するALT(英語・中国語)及び講師(韓国語)による「世界の文化等について」特別授業を実施することで、グローバルな視点の育成を図る。

4 令和7年度キャッチフレーズ 『 長所を伸ばす 長所を活かす 』

日頃の生徒と接する場面において、ポジティブで前向きな声掛けをすることで、生徒の「自己肯定感」の高揚を図る。本人が「短所」と感じている資質も、捉え方ひとつで「長所」になることを我々の働きかけで気付かせる。

また、「長所」を武器として、それを活かす場面を生徒に与える。自分の長所に「気づき・考え・行動する」プロセスを繰り返すことで生徒の成長を促し、「生徒の長所が溢れる明るく楽しい学校」づくりを進める。

5 本年度の重点目標

- 主体的・対話的で、お互いに深め合う学びの充実（教育課程・教科指導）
- 多様性を受け入れ、共生社会を構築できる懐の深い生徒の育成（生徒指導）
- 生徒の決定を承認し、生徒の主体的な活動を促す指導（学校運営）
- 安全・安心な学習環境の整備と施設設備の有効活用
（安全確保・危機管理／学校事務の処理）

6 KANSHO SDG's Project

“Think Globally , Act Locally”（地球規模で考え、自分たちの足元から行動）
地域の「ひと・もの・こと」に深く関わり、地域の将来に思いを寄せながら、専門的知識や技術を習得し、多くの仲間と力を合わせて、ふるさとの多様で複雑な課題に対して、自ら行動できる「持続可能な社会の創り手」を育成する。

7 その他

（1）日頃から取り組んでいただきたいこと

- 説明は「Quick・Simple・To the point」を意識する。
- 授業の充実（教授法・教科を通して何を教えるか）
- 短くても良いので、アウトプットの機会を生徒に与える。
- 部活動では、皆から応援される選手育成とチームづくりを。（授業を大事に）
- 生徒の指導は職員全員で行う。（それぞれが責任を持つ）
- 基準が「生徒のため」だけにならない。（健康第一・家庭優先）
- 働き方改革（二律背反の実現がイノベーションである）
例）休みを増やしてもチームが強くなる。補習を辞めても合格率が上がる。
- 生徒に指導することについては、我々も率先してやる。

（2）指導する場面で頭に置いていただきたいこと

- 「主体的な取り組み」は「生徒の自由にやらせること」ではない。
- 先生方の考える「良い生徒」とは？ 生徒には「批判的思考」を持たせる。
- ドリルを買いに来た人が欲しいのは「穴」である。（本質を見る）
- デザインシンキング（教員は黙って我慢）
- アンラーン（これまでの蓄積や考え方を一旦捨ててみる）

（3）マーケティングの真の目的は「販売をなくすこと」である。（P.F.ドラッカー）

中学生が高校を選択する理由は様々であるが、新1年生にアンケートを取ってみると「学校の雰囲気」という理由が毎年上位に上げられていた。

中学生への広報はとても大事である。ただそれ以上に、今いる生徒が本当に充実した高校生活を送ること、それが周囲にしみ出ること、中学生や保護者、中学校の先生や地域の方々が「いい学校だな」と感じる事が最大の広報活動になる。

特別な広報活動をしなくとも、普段の充実した学校生活が生徒募集につながるような学校を目指したい。